



行發日七十月九 刊日七十月九 刊日七十月九

金成通氏を論ず

植田町 風生

氏の美徳は極めて... 有名である。社交にも、事にも一大活躍を試みるに至る。一つの行為が其の徳に現れてゐる。過般の下である。人間一人の働きは豫て現れて来る。後々には人間界院議員選挙に於ては同志多量も出来ぬ事程大なる事を氏の事業も、氏の名譽も、數から立候補を推薦されては、現在から永遠に向つて其の爲に努力して之れを受ける。殊に氏の如き立場からする光輝を放ち、人類の爲めことをせし後輩に之を譲つて専ら地方産業振興の爲めに奮進することを誓ひ露程の野望も抱かなかつた。他を立てることは寧ろ自己を立てられるのであつた。天道決して人を殺すことをせぬ。謙讓の人は外観除りにも弱く見える場合が多い。『弱き人、貧しき人』を以て任じて来た氏のある所は、蓋し其の邊に在るのである。併し氏は皮相な觀方である。世の中には強さうに見えてゐて其の實案外弱い人がある。氏こそ後者に屬する人である。氏こそ後者に屬する人である。氏こそ後者に屬する人である。

信濃の旅

島田 忠夫

○思ひつづれば來にけり湖の照りかへし暮き石ころの道
○湖をおほに見おろす岡の上わが師はねむるとことままで
○ことごとく吾をいつくましましたまひつる島木赤彦ここに眠らす
○信濃なる諏訪の湖へ見おろしてたゞに廣らにさびしきものを
○師の家に妻のみこは家守りてたゞ静かにもゐまし給へる
○はるばると旅來しわれや諏訪の國高木の岡にむせつ泣かゆ

潮聲句會

第四十七回

久の濱遊著五章 高久 晩霞
外海は濤音高く星涼し 涼しさの突堤を打つ潮の聲 廣船のなればさびしき目の海 海に來て日焼けし子等の目の光り 外風呂やうす暗がりには目を叩く 夕立晴れて名残の雲なかりけり 金子 石城 夕立雲吹き飛ばされし船輪かな 苦川の航へてありぬ夕立時

野の突風と

なかのひさを

日は朝の朝の... 野の突風と... 野の突風と... 野の突風と... 野の突風と...

拈華微笑

式 壯哉

日その擴張... 拈華微笑... 拈華微笑... 拈華微笑...

秋氣飽遊... 八幡洞時... 拈華微笑... 拈華微笑...

流れる星... 大方 勝義... 流れる星... 流れる星...

散文の提唱... 三木 貞夫... 散文の提唱... 散文の提唱...

お蘭陀お蝶... 渡邊 春樹... お蘭陀お蝶... お蘭陀お蝶...

流れる星... 大方 勝義... 流れる星... 流れる星...

散文の提唱... 三木 貞夫... 散文の提唱... 散文の提唱...

お蘭陀お蝶... 渡邊 春樹... お蘭陀お蝶... お蘭陀お蝶...

お蘭陀お蝶... 渡邊 春樹... お蘭陀お蝶... お蘭陀お蝶...



お蘭陀お蝶... 渡邊 春樹... お蘭陀お蝶... お蘭陀お蝶...

お蘭陀お蝶... 渡邊 春樹... お蘭陀お蝶... お蘭陀お蝶...

お蘭陀お蝶... 渡邊 春樹... お蘭陀お蝶... お蘭陀お蝶...

お蘭陀お蝶... 渡邊 春樹... お蘭陀お蝶... お蘭陀お蝶...

お蘭陀お蝶... 渡邊 春樹... お蘭陀お蝶... お蘭陀お蝶...

お蘭陀お蝶... 渡邊 春樹... お蘭陀お蝶... お蘭陀お蝶...

Advertisement for various services including hospitals (市原病院, 木村病院, 藤沼醫院, 難波醫院), a bookstore (中野洋品店), and a paint shop (共榮漆器店). Includes contact information and addresses.

近代都市最先の施設！

人口四萬標準の上水道

明後十九日秋祭清き八幡祠畔で

人口二萬五千人を標準に...

九州から徒歩で

樺太視察の壯舉

昨十六日午前十一時頃...

祐天上人開扉血脈會

廿日から一週間最勝院で

共済委員會

縣主催郡内共済委員打合せ

見知らぬ兒童の

病中の四家元訓導

大腸加答兒か

今夜左右の決定を見る

初秋蘭愈々末期に入る

昨四倉の出廻り五十貫弱

小學校「ドッチボール」

あす第一校庭で開催

大腸加答兒か

今夜左右の決定を見る

物色し廻る怪漢

精神病者と判明家人渡し

悪辣な鷹遊暑客

裏面に潜り罪の數々

秋の食卓に上る イナゴの料理

炭鑛の女房達

深夜の平陽校内を

物色し廻る怪漢

悪辣な鷹遊暑客

小學校「ドッチボール」

大腸加答兒か

見知らぬ兒童の

豆腐賣り實少年

移轉披露

ハシモトヤ糸店

セタン揃ひで!

昭和三十七年九月十八日

昭和三十七年九月十八日

昭和三十七年九月十八日

昭和三十七年九月十八日

平町慶弔

移轉披露

ハシモトヤ糸店

セタン揃ひで!

昭和三十七年九月十八日

昭和三十七年九月十八日

昭和三十七年九月十八日

昭和三十七年九月十八日